

環境教育と啓発

平成18年度「環境大賞」

会社では、郵便局など現場において、すぐれた環境保全への取り組みを奨励しながら全社的に情報を共有し、環境施策を円滑に推進するために、社内推奨制度として公社発足時の平成15年度から「環境大賞」を創設しています。平成18年度は「環境大賞」への推奨も4年目となり、施策の幅が広がってきたことから、平成17年度よりも基準点を引き上げ、かつ独自性・進取性を重視して選考した結果、本社で開催された授賞式には2局4名の招待にとどまりました(平成19年6月15日開催)。



平成18年度環境大賞受賞者

社内報「郵政」による啓発

毎月職員の手もとに届けられる社内報「郵政」を活用し、環境関連のコーナー「こんなエコ・あんなエコ・みんなエコ」に環境に関する情報や郵便局での取り組み事例などを掲載して職員啓発を行っています。この記事は社内ポータルサイトに掲載して、環境教育への活用を促しています。平成18年度は、環境行動計画の開始、平成17年度「環境大賞」の決定、環境保全とコスト削減など、時機をとらえて効果的に合計6回掲載しました。



社内報「郵政」環境関連記事コーナー

ポスターによる啓発

環境省がよびかけ、多くの企業や自治体・国民が参加する、6月の「環境月間」には、全国の郵便局およびその他施設で環境保全に関する独自の取り組みを行っています。昨年度と同様に、紙資源の削減を意図して両面印刷の環境啓発ポスターを作成し、職員の意識向上をはかりました。特に、裏面の環境中期計画啓発用は、職員が何をすべきであるかが具体的であり、わかりやすいと環境コンサルタントから高い評価を受けました。



環境啓発ポスター(表)
6月の環境月間
(掲出期間:平成18年6月)



環境啓発ポスター(裏)
環境中期計画啓発用
(掲出期間:平成18年7月~
平成19年9月)

本社工コツアアの開催

昨年度に引き続き、平成18年6月に「環境月間」の施策として、本社の職員を対象とした環境先進企業の見学会「エコツアー」を開催しました。今回は、平成16年度に環境大賞総裁賞を受賞した渋谷郵便局(東京都)で実際にどのような取り組みを行っているのかを見学しました。郵便局以外では株式会社リコーの本社ビル、東京電力横浜火力発電所、六本木ヒルズの地下エネルギープラント(東京ガスのガスを使って発電もしている施設)および屋上庭園の見学をさせていただきました。エコツアーで得たことをそれぞれの職場に持ち帰り、環境施策の推進のために役立てています。



平成16年度環境大賞総裁賞である渋谷郵便局の局長から、環境への取り組みの概要について説明を受け、その後局内を見学しました。



株式会社リコーでは主にごみ分別管理の方法やオフィスのペーパーレス化の取り組みについて見学しました。



東京電力横浜火力発電所では、小型模型で環境にやさしい高効率発電設備の概要について説明を受け、その後発電所内を見学しました。



六本木ヒルズ屋上では都市のヒートアイランド現象の緩和や環境に配慮した本格的な屋上庭園を見学しました。



平成18年度「環境大賞」

総裁賞

東京支社 葛飾郵便局(東京都)

取り組みの概要

ISO14001の継続的な取り組み
環境負荷削減および職員の環境意識の啓発を目的に、
廃材を利用して洗車に利用するための雨水貯水タンクを
自主的に製作

お客様向けPR

窓口ロビーに環境PRコーナーを設置し、
自主製作した環境PRビデオを放映するなど
環境への取り組みを自局内のみならず、お客様にも広くPRすることで、
地域と一体となった環境保全活動を推進

光熱水使用量などの削減への取り組み

毎日の局内巡視による不要電灯の消灯徹底や燃費コンテストの実施など



本社において開催された授賞式(平成19年6月15日)

環境委員長 特別奨励賞

四国支社 高知東郵便局(高知県)

取り組みの概要

職員の環境意識の啓発
光熱水使用量などの削減への取り組み

環境委員長 奨励賞

- ・北海道支社 帯広郵便局(北海道)
- ・東北支社 青森西郵便局(青森県)
- ・関東支社 高崎郵便局(群馬県)
- ・関東支社 土浦郵便局(茨城県)
- ・東京支社 東京多摩郵便局(東京都)
- ・南関東支社 綾瀬郵便局(神奈川県)
- ・信越支社 新潟中央郵便局(新潟県)
- ・北陸支社 福井南郵便局(福井県)
- ・東海支社 四日市西郵便局(三重県)
- ・近畿支社 住吉郵便局(大阪府)
- ・中国支社 岡山中央郵便局(岡山県)
- ・四国支社 高松中央郵便局(香川県)
- ・九州支社 福岡東郵便局(福岡県)
- ・沖縄支社 那覇中央郵便局(沖縄県)

VOICE 全国の現場での取り組み

意識は思いやりから



葛飾郵便局
総務課
小池 英美

ISO14001運用開始当初、環境コンサルタントから産業廃棄物保管場所に屋根のないことを指摘され、「せっかく屋根を作るのなら受けた雨水をそのまま捨てるのはもったいない!」といった発想から、主に廃材を利用して雨水貯水タンクを手づくりで作製しました。環境問題への取り組みは、「意識すること」ではないでしょうか。ちょっとしたことでも意識していれば自然に行動 環境への思いやり が生まれます。消灯、電源オフ、縮小・両面印刷、ごみの分別など、当たり前のことを誰もが自然に実践できれば効果は現れます。空調温度適正管理で、電気、水道、ガスの使用量が削減され、光熱水費だけでも対平成14年度比で約800万円の削減(=環境負荷低減)となりました。私が子供の頃、父に「あさがおや つるべとられて もらひ水」という句を聞かされ、未だに忘れていません。「思いやり」が「意識すること」につながると思います。未来を生きる子供たちへ伝えていかななくてはなりません。

